

■刊行にあたって

現在、わが国は国民の約1/3が65歳以上の高齢者となり、超高齢社会に突入しています。また、医学・歯学・薬学・医療技術などの進歩は、平均寿命の延伸の他にも、難病の治療法の開発や先天性疾患をもつ新生児の救命など、多大な成果を上げてきました。

このような社会的背景の下で、歯科医師や歯科衛生士は、増加する有病者（何らかの病気をもつ人）に対して安全な歯科医療を提供することで、口腔と全身の健康の向上に貢献することが求められています。

歯科治療は、患者さんにとって心身の大きなストレスになるとされていますが、有病者ならその影響はさらに大きくなります。したがって、私たちが有病者に安全な歯科治療を施すには、医科の疾患の知識を十分に備えたうえで、それに留意して行う必要があります。

本書では、歯科診療で遭遇する可能性の高い113の全身疾患を選択しました。

内容構成は、①問診票から、②主訴の例、③ Key words、④疾患の概要、⑤歯科との関係の5項目とし、さらに、このなかでとくに重要な「歯科との関係」については、以下の実践的な項目に分けて詳細を記載しました。

「非観血的な歯科治療の可否および観血的な歯科治療の可否と留意点」、「投薬」、および「連携する医科の診療科」などです。

本書は、開業医や勤務医、総合病院・大学病院の研修医、若手の歯科医師、歯科衛生士などが、有病者の治療を開始する前はもちろん、医科からの診療情報提供書（照会、紹介、返信）を読むときや、作成する際にも活用していただきたいと考えています。

編集委員一同は、本書が有病者に安全な歯科治療を提供する一助となり、それが患者さんからの歯科医療に対する信頼に繋がることを確信しています。

2020年7月

編集委員代表 和気裕之

みどり小児歯科